

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

仏教天文学説の起源と変容

Origins and Transformations of Buddhist Astronomical Doctrines

2. 研究代表者氏名

小林 博行

KOBAYASHI, Hiroyuki

3. 研究期間

2021年4月-2024年3月(3年目)

4. 研究目的

本研究は、仏教経典に見られる広い意味での天文学にかかわる諸説を検討し、その多様な起源と変容を明らかにする。仏教経典の中には、宇宙の構造、太陽と月の運行、暦法、占星術などについての諸説を掲載するものがある。これらはもともと成立時期も背景もさまざまであったが、さらにインドから中国へ、そして朝鮮、日本へと伝わる過程で各地の文化や社会に適応しつつ、大きく変容していった。

その具体的プロセスを明らかにするために、本研究ではとくに19世紀日本で提唱された「梵暦」に着目し、そこに取り上げられた諸学説の起源と変容の解明を試みる。「梵暦」の推進者たちは、多くの経典から関連諸説を集めて、須弥山を中心とする仏教的世界像の再構築を目指した。それら関連諸説の相違や重複に注目しつつ、その由来を検討することで、長期間にわたる広範な文化伝播現象をとらえ、さらには「梵暦」自身を批判的に乗り越えることを目指す。

In this research, we examine astronomical doctrines found in Buddhist sutras in order to elucidate their multiple origins and transformations. Some Buddhist sutras are known to contain various theories concerning cosmic structure, solar and lunar motions, calendar systems, astrology, etc. Originally formulated in different times and circumstances, these teachings underwent substantial transformations, adapting to local cultures and societies in the process of diffusion from India to China, then to Korea and Japan.

To trace their actual processes, we focus on the "Bonreki", a Buddhist astronomical campaign advocated in 19th century Japan, and attempt to shed light on origins and transformations of doctrines exploited thereby. "Bonreki" proponents garnered information from many sutras to reconstruct the Buddhist universe with Mount Sumeru at its center. By

examining the provenance of doctrines while paying due attention to their discrepancies and redundancies, we aim to gain an understanding of a long and broad-ranging series of cultural transmissions and to critically surpass the "Bonreki" itself.

5. 本年度の研究実施状況

2023年度から新型コロナウイルスがおおむね収束したことで、研究会を対面+zoomのハイブリッドで実施できるようになり、最終的には計25回の研究会を重ねた。『仏国曆象編』訳稿検討については、巻3から最終第5巻の途中までの検討を終え、あわせて巻1・2の編集作業をすすめた。また6月には台湾中央研究院・李建民氏から東アジアの学術の近代的展開にまつわる報告を得、8月にはドイツで開催されたICHSEA 2023に提出したパネル企画「Astral Sciences in Context of Cultural Encounters」が採択され、実施した。12月には、本研究班の活動を総括する人文研アカデミーセミナー「仏教天文学と文化交流」を実施し、多数の参加者を得た。また、今後の訳稿検討・編集に必要な『仏国曆象編』版本などの文献を研究班予算で購入した。なお、かつて科学史研究班が運営に関わり、本研究班の班員らが編集・執筆に加わった拠点共同研究の成果論文集『東アジア伝統医療文化の多角的考察』が、2023年度の研究成果刊行助成を得て刊行されたことを付記しておく。

6. 本年度の研究実施内容

- 2023-04-10 『仏国曆象編』会読 巻3.26a08-29a02 発表者 宮島一彦
- 2023-04-24 『仏国曆象編』会読 巻3.29a04~30b06 発表者 平岡隆二 巻3.30b07-32b05
発表者 小林博行 中部大学
- 2023-05-08 『仏国曆象編』会読 巻3.32b06-34a03 発表者 宮島一彦 巻3.34a04-36b03 発表者 矢野道雄 京都産業大学
- 2023-05-22 『仏国曆象編』会読 巻3.34a04-36b03 発表者 矢野道雄 京都産業大学 巻3.36b04-42a02 発表者 平岡隆二
- 2023-06-03 研究報告会 私の二重証拠法 発表者 李建民 台湾中央研究院歴史語言研究所
白鳥庫吉の学説をめぐる日本学術界の反応と王国維「二重証拠法」の形成 発表者 西山尚志 埼玉大学
- 2023-06-12 『仏国曆象編』会読 巻3.36b04-42a02 発表者 平岡隆二 巻3.42a03-44b06 発表者 小林博行 中部大学
- 2023-06-26 『仏国曆象編』会読 巻3.42a03-44b06 発表者 小林博行 中部大学 巻3.44b07-47a03 発表者 矢野道雄 京都産業大学
- 2023-07-10 『仏国曆象編』会読 巻3.47a04-48a03 発表者 宮島一彦 巻3.48a04-49a01 発表者 矢野道雄 京都産業大学
- 2023-07-24 『仏国曆象編』会読 巻4.01a01-04a02 発表者 小林博行 中部大学 巻4.04a03-07b03 発表者 宮島一彦

- 2023-08-22 Panel ""Astral Sciences in Context of Cultural Encounters,"" ICHSEA 2023, Frankfurt Jesuit Cosmology in Japanese Translation: A Newly Discovered Manuscript of Sufera no nukigaki (Selection on the sphere) and its significance
 発表者 Ryuji HIRAOKA Islamicate Reading of the Chinese Calendar: Quṭb al - Dīn al - Shīrāzī (1236–1311)'s Note on a Topkapı Fragment (Ahmet III 3455) 発表者 Yoichi ISAHAYA 北海道大学 Traditional Time with Changing Rulers: Lunisolar Calendar in Modern Okinawa 発表者 Takuya MIYAGAWA 広島修道大学 When George Sarton Met Oriental Science: Shinjo Shinzo's Article on Scientific Japan and Its Transnational Reflections 発表者 Xudong GAO 東京工業大学／清華大学 コメンテーター Lim JONGTAE ソウル大学
 コメンテーター Christopher CULLEN ニーダム研究所 司会 塚原東吾 神戸大学
- 2023-09-04 『仏国曆象編』会読 巻 4.07b04-12b10 発表者 宮島一彦
- 2023-09-25 『仏国曆象編』会読 巻 4.13a01-29b05 発表者 矢野道雄 京都産業大学
- 2023-10-16 『仏国曆象編』会読 巻 4.29b06-31b10 発表者 小林博行 中部大学 巻 4.32a01-33a07 発表者 宮島一彦
- 2023-10-23 『仏国曆象編』会読 巻 4.33a08-35b04 発表者 梅林誠爾 熊本県立大学
- 2023-11-13 『仏国曆象編』会読 巻 4.35b05-36b07 発表者 小林博行 中部大学 巻 4.36b08-37b03 発表者 宮島一彦
- 2023-11-27 『仏国曆象編』会読 巻 4.37b04-41a07 発表者 宮島一彦 巻 4.41a08-43b08 発表者 清水浩子 大正大学
- 2023-12-03 人文研アカデミーセミナー「仏教天文学と文化交流」 仏教天文学説の起源と変容」研究班について 発表者 小林博行 中部大学 6世紀の西域仏教石窟寺院の壁画に見られる須弥山図像について 発表者 檜山智美 国際仏教学大学院大学 円通の暦学とその影響—応天暦を中心として— 発表者 高橋あやの 大東文化大学東洋研究所 良識としての暦道—小嶋濤山『仏国曆象弁妄』と陰陽道の視点 発表者 梅田千尋 京都女子大学 平面天体儀「両曜運旋略儀」と環中「須弥山儀」 発表者 梅林誠爾 熊本県立大学 司会 平岡隆二
- 2023-12-11 『仏国曆象編』会読 巻 4.37b04-41a07 発表者 宮島一彦 巻 4.41a08-43b08 発表者 清水浩子 大正大学 巻 4.43b09-47b01 発表者 梅林誠爾 熊本県立大学
- 2023-12-25 『仏国曆象編』会読 巻 4.47b02-51a08 発表者 矢野道雄 京都産業大学
- 2024-01-15 『仏国曆象編』会読 巻 4.52b05-54b04 発表者 Bill MAK ニーダム研究所 巻 4.54b05-56b08 発表者 宮島一彦
- 2024-01-29 『仏国曆象編』会読 巻 4.51a09-52b04 発表者 清水浩子 大正大学 巻 4.54b05-57b01 発表者 宮島一彦
- 2024-02-12 『仏国曆象編』会読 巻宮 5.01a01-02a03 発表者 宮島一彦 巻 5.02a05-03a04

発表者 高橋あやの 大東文化大学東洋研究所

2024-02-19 『仏国暦象編』会読 巻 5.03a05-04b06 発表者 小林博行 中部大学 巻 5.04b07-06a04 発表者 宮島一彦

2024-03-11 『仏国暦象編』会読 巻 5.06a05-08a04 発表者 梅林誠爾 熊本県立大学 巻 08a05-09b09 発表者 小林博行 中部大学

2024-03-25 『仏国暦象編』会読 巻 5.09b10-13a03 発表者 Bill MAK ニーダム研究所 発表者 平岡隆二 巻 5.13a04-14b01 発表者 宮島一彦

7. 共同研究会に関連した公表実績

学会パネル企画「Astral Sciences in Context of Cultural Encounters」

学会名：ICHSEA 2023, Frankfurt

日時・場所：2023年8月22日、ゲーテ大学（ドイツ）

オーガナイザー：平岡隆二（京大人文研）

人文研アカデミーセミナー「仏教天文学と文化交流」

日時・場所：2023年12月3日、京大人文研本館大会議室＋zoom ウェビナー

参加総数：164名

8. 研究班員

所内

平岡隆二、高井たかね、宮紀子

学外

小林博行(中部大学)、三村太郎(東京大学)、豊田裕章(大阪大学)、多田伊織(大阪大学)、白雲飛(大阪府立大学)、梅林誠爾(熊本県立大学)、檜山智美(国際仏教学大学院大学)、高橋あやの(大東文化大学)、橋本敬造(関西大学)、矢野道雄(京都産業大学)、清水浩子(大正大学)、梅田千尋(京都女子大学)、吉村美香(愛知淑徳大学)、新居洋子(大東文化大学)、金子貴昭(立命館大学)、岡田正彦(天理大学)、Bill Mak(ニーダム研究所)、Jeffrey Kotyk(ブリティッシュコロンビア大学)、Daniel Monteiro(パリ大学)、マティアス・ハイエク(フランス国立高等研究実習院)、宮島一彦

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
			(内女性)	(0)	(0)	(0)		(0)	(0)	(0)	(0)
人文研所属 (内女性)	1 (2)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	59 (42)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学 (内女性)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学 (内女性)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学 (内女性)	1 (4)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	120 (50)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人 (内女性)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関 (内女性)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関 (内女性)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)
その他 ※ (内女性)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	6 (9)	20 (9)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	226 (109)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)

※「その他」の区分受入がある場合
具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員
無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	2		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	10		1	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		1	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月	論文名	発表者名
1	『洋学』30号	1	R5.5	開陽丸引き揚げ文書と梅文鼎『曆算全書』	平岡隆二
2	『近世日本のキリシタンと異文化交流』勉誠出版	1	R5.7	キリシタンと時計伝来	平岡隆二
3	『現代思想 特集＝〈計算〉の世界』	1	R5.7	イスラーム科学と計算—一〇進法と六〇進法の融合	三村太郎
4	『巫・占の異相—東アジアにおける巫・占術の多角的研究』志学社	1	R5.8	日本中世初期の都市構造と気脈や地勢を重視する風水思想との関わり—平清盛の福原・源氏将軍の大倉御所・後鳥羽院の水無瀬離宮—	豊田裕章
5	『巫・占の異相—東アジアにおける巫・占術の多角的研究』志学社	1	R5.8	東アジア三国における『靈棋経』の存在様相	吉村美香
6	『古代文化』75(2)	1	R5.9	淡と痰と澹—古代インド医学と中国医学の交渉—	多田伊織
7	『大阪市立科学館研究報告 第』33号	1	R5.9	人間日時計とその設置—付・小原銀之助氏の日時計事績	宮島一彦
8	パリ・シテ大学博士論文	1	R5.9	Monitored Connections: Transnational Nagasaki and the Circulation of Hybridized Cosmologies in Early Modern Japan (1630–1720)	Daniel Said Monteiro
9	『近世史を見通す 6 宗教・思想・文化』吉川弘文館	1	R5.10	民間宗教者の活動と神社	梅田千尋
10	『陰陽師とは何者か—うらない、まじない、こよみをつくる』小き子社	1	R5.10	陰陽師、たばねる—近世の陰陽道(第1部第三章)	梅田千尋

11	『西洋史研究』新輯第五二号	1	R5.11	大モンゴル国からみたヨーロッパ	宮紀子
12	Historia Scientiarum 33-1	1	R5.11	Barhebraeus between Ptolemy and Tūsī: the Influence of Tūsī's Hay'a Works on Barhebraeus' Ascent of Mind	Taro Mimura
13	『對法雜誌』	1	R5.12	中央アジアの仏教寺院を復元するー石窟構造、美術、そして説一切有部の二分派ー	檜山智美
14	『伊藤圭介日記第 29 集』名古屋市東山植物園	1	R5.12	牧野富太郎による伊藤圭介の顕彰の一考察	吉村美香
15	『東洋研究』231号	1	R6.1	南宋『中興四朝国史』天文志の特徴ー『文献通考』象緯考を手掛かりとして	高橋あやの
16	『東アジア伝統医療文化の多角的考察』臨川書店	1	R6.2	『東医宝鑑』の日本への伝播と波及	吉村美香
17	『東アジア的世界分析の方法：「術数文化」の可能性』文学通信	1	R6.2	陰陽五行と数	清水浩子
18	『東アジア伝統医療文化の多角的考察』臨川書店	1	R6.2	五味・五臓と季節ー『遵生八牋』から考えるー	清水浩子
19	『東アジア的世界分析の方法：「術数文化」の可能性』文学通信	1	R6.2	世宗期の天文暦算学における中国知識の受容	高橋あやの
20	『万葉古代学研究年報』第22号	1	R6.3	吉野ー仙境とその周辺	多田伊織
21	『日本医史学雑誌』第70巻第1号	1	R6.3	伊藤圭介記念碑からみた顕彰のかたちー伊藤圭介生誕220年記念に寄せて	吉村美香
22	『近代熊本』41号	1	R6.3	佐田介石と浅田宗伯の交流ー病を治するは国を治するが如し	梅林誠爾

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際 共著
1	東アジア伝統医療文化 の多角的考察	大形徹・武田時昌・平岡隆二・ 高井たかね編	R6.2	臨川書店	

12. 博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	1 (学外1)

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班で実施してきた『仏国暦象編』の訳稿検討・編集は、2024 年度に立ち上げる人文研共同研究班「東アジア伝統科学における自然と人間」（班長：平岡隆二、2024～2026 年度）で継承し、その成果は将来『京大人文研科学史資料叢書』（臨川書店）から刊行する予定である。また『宿曜経』会読研究の成果についても将来の訳注刊行をみすえた準備を進める。

上記の新研究班では、「自然と人間」というより広い枠組みから、東アジア伝統科学の内容と性格についての共同研究を進めるが、本研究班で行った仏教天文学についても継続的な議論を続け、その研究のさらなる進展を図る予定である。